

指揮 アドバイザー



阿久澤 政行

マロニエールクラシックフェスティバルオーケストラ(MCF)第1回コンサートほか、国内外にて弾き振りによる協奏曲を披露。女性合唱団『コーラル・キルシエ』指導・指揮者。

宇都宮短期大学創立50周年記念にて宇都宮短期大学管弦楽団を指揮。MCFキッズコンサートにおけるMCFオーケストラ常任指揮者。

指揮を北原幸男、アンサンブルをK.ベルケシュ各氏に師事。

現在、宇都宮短期大学音楽科専任講師、同附属高等学校音楽科講師、ミュージックアカデミー東京講師。



吉澤 真一

獨協医大管弦楽団、越谷市民交響楽団と1980年頃より現在に至る約40年トレーナー及び指揮者として交流を持つ。

アンサンブルオーケストラ・エローラにて奏者兼指揮者として出演。山田栄二氏の作品に多く親しむ。

弦楽アンサンブル「エテルニータ」「わかな」の定期公演を指揮。田淵進先生追悼演奏会にて記念オーケストラを指揮。指揮においても田淵進先生より多くの示唆を受ける。

「森の音楽教室」にて合奏を指導。現在、宇都宮短期大学音楽科講師、同附属高等学校音楽科講師。



田淵 哲也

吹奏楽指揮者として、宇都宮短期大学附属高等学校 OBOG ウインドオーケストラを指揮し5年連続県代表として東関東大会出場。

現在、宇都宮短期大学附属高等学校吹奏楽部常任指揮者。室内楽を山本正治、四戸世紀、岡本正之の各氏に、指揮を城谷正博、黒尾実の各氏に師事。2015年栃木県優秀者指導者賞受賞。

日本吹奏楽指導者協会(JBA)会員。宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師、洗足学園音楽大学准教授、新潟県新潟中央高等学校音楽科講師。

その一振りに魂を込めて

1. はじめに

オーケストラや吹奏楽、合唱等の演奏形態には指揮者が必要となります。バロック期の合奏は、テンポをキープするために、杖のような長い棒を床に打ち付けてリズムをとって指揮をしていました。古典時代では多くの場合、作曲家自身によって指揮されました。

そんな中、指揮棒(タクト)を振って指揮をするスタイルを作ったのは、フェリックス・メンデルスゾーン(1809-1847)だと言われています。そして、ハンス・フォン・ビューロー(1830-1894)による専門指揮者が誕生し、トスカニーニ、フルトヴェングラー、カラヤン、バーンスタイン等のカリスマ指揮者に受け継がれていきました。大ホールで指揮をするためには、どの様な知識や練習が必要でしょうか？一緒に考えてみましょう。

2. 指揮の基本

指揮者とは、数十人～百人、二百人という多人数複数の奏者を統括する役割です。実際に音を奏でるのは指揮者ではなく、複数の奏者です。演奏者からみて、①わかりやすい動作であること。②指揮動作が基本に添って常に正確で明瞭であること。③余計な動作がなく、簡単明瞭な動作であること。④自己陶醉、自己顕示的な動作をしないこと。⑤正確なテンポを示した動作であること。以上の事柄が大切になります。



(宇都宮短期大学県北地区演奏会…第九より第4楽章)



(宇都宮短期大学彩音祭ブラスバンドによるオープニング)

さて、指揮棒を持つ演奏と持たない演奏が存在することに疑問を持つ方もいるのでは。厳格なルールは特にありませんが、交響曲等では曲想を踏まえて緩徐楽章のみ指揮棒を置く指揮者もいます。また、マーチングバンドの指揮者等は、クラシック音楽の指揮棒よりはるかに大きな、杖のような指揮棒を使用することもあります。

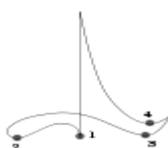
3. 指揮の基本図形



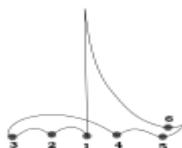
2/4 拍子、2/2 拍子、テンポの速い 6/8 拍子及び速い 4/4 拍子



3/4 拍子、3/8 拍子及び 9/8 拍子



4/4 拍子、12/8 拍子及びテンポの遅い 2/4(2/2) 拍子



テンポの遅い 6/8 拍子

音楽を学ぶということは、単に楽器の奏法だけを学ぶのではなく、楽譜に記譜されている楽語を勉強することも大切です。特に指揮者にとっては、様々な楽語の意味を理解し、曲想に相応しい楽語の解釈を楽団員に伝えなければなりません。また、オペラなどは、イタリア語やドイツ語、時にはロシア語やフランス語による歌詞なども理解する必要があります。

4. 貫く信念、目指す方向性

ここまでをまとめてみると、指揮者の役割とは譜面(スコア)を読んで曲を解釈し、演奏の基本方針を決める人、ということが理解できたのではないのでしょうか。

指揮者にとって、最も感情が溢れ出す曲があります。ベートーベンの交響曲第五番「運命」の一楽章の冒頭の「運命の動機」の部分です。出だしの合図(アインザッツ)が難しいことで有名です。指揮のアインザッツ後に、八部休符が一個あり、その後に弾き出さなければなりません。如何に指揮者が出だしの一振りに魂を込めるのか、共感できると思います。是非スコアを手に取り、鑑賞してみてはいかがでしょうか。



(ポケットスコア…左→全音出版社 他→EMB 出版社)

5. まとめ 音楽ホールに刻み込まれた音、偉人たちが問いかけること

音楽ホールには歴代の演奏家たちによる『音』が染み込んでいます。作曲家が作品に命を吹き込むように、演奏家はホールの空間全体に音を奏でます。

指揮を学ぶ事は、独奏楽器の解釈にも大きく役立ち、現代の演奏表現に、いったい何が求められるのか。そのヒントの一つかもしれませんね。有名な偉人における名言を以下に紹介し、まとめとさせて頂きたいと思います。

★エルベルト・フォン・カラヤン(1908-1989)

“怠惰を克服し、喜んで必要な努力を払うこと、それがつねに精神の直感に力を与えてきたのだ。” (エッセイ『リハーサルについて』より)

★ヴィルヘルム・フルトヴェングラー(1886-1954)

“感動とは人間の中にではなく、人と人の間にあるものだ。”

(中日新聞「中日春秋」2018年3月29日付(朝刊))

★斎藤秀雄(1902-1974)

“まず型に入れ、そして型から出よ。”